



# 田代小だより

令和8年2月28日

児童数138名

愛川町立田代小学校

発行責任者 栗根 幸子



## 第11号

寒さの中にも、やわらかな日差しに春の気配が感じられる頃となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動を温かく見守り、支えていただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

先日、本校で初めてとなる相撲大会を開催しました。体育委員会の高学年が中心となって準備を進め、学年ごとの予選から決勝へと、土俵（マット）を囲んで大きな声援が響きました。子どもたちは真剣な表情で力いっぱいぶつかり合いました。今回、初めての試みでしたが、「よし、やるぞ！」と勇気を出して出場した子、相手に本気でぶつかっていった子、そして、それを一生懸命に応援した仲間の姿。その場に溢れた熱いエネルギーと一体感に、私は何よりも嬉しさを感じました。勝敗の結果以上に、全力で相手に向き合う「たくましさ」と、戦った後の互いを称え合う「しなやかさ」を、子どもたちから教わった気がします。

来週には「6年生を送る会」を予定しています。卒業を間近に控えた6年生は、これまで学校のリーダーとして、下級生のためにたくさん活躍してくれました。感謝の気持ちを込めて、全校みんなの心に残る温かな会にしたいと考えております。

### ◆「しなやかな強さ」を育む◆



先日の全校朝会では、子どもたちに「ナイル川を渡るアリ」の話をしました。私が学級担任をしていた頃、当時の校長先生からお聞きして以来、ずっと大切にしてきた話です。

何万匹ものアリが互いに手をつなぎ、一つの大きなボールになって濁流を渡っていく。岩にぶつかっても形を変えて衝撃を逃がし、決して壊れない。苦しい時は上下を入れ替わり、みんなで支え合って進む。そんな「しなやかな強さ」を、子どもたちにも育ててほしいと願っています。

また、ある先生から教わった「弓矢」の例えも、私の心に深く残っています。「矢」は未来へ向かって飛んでいく子どもたち、「的」は子どもたちの夢や目標。そして矢を放つ「弓」は、私たち教師や保護者、地域の皆様、すなわち子どもを支える大人であるというお話です。

弓に豊かな「しなり」があるからこそ、矢は真っ直ぐに、遠くまで飛んでいくことができます。私たち大人が子どもの思いを柔らかく受け止め、共に悩み、時にはぐっところえて見守る——。この「大人のしなり」こそが、子どもたちが自分の力で立ち上がるための力になるのです。アリのボールがそうであるように、私たち大人もまた、しっかりと手を結び合い、子どもたちを共に育てていきたい。その「しなり」の強さが、田代小学校の力になると信じています。

### ◆次のステップへ◆



令和7年度も、多くの場面で保護者の皆様、地域の皆様に支えていただきました。令和8年度も学校教育目標である「共に学び 共に育つ」を大切に、失敗を恐れずに「考えて行動できる子」をめざして、一歩ずつ歩いてまいります。そして、「自分もOK みんなもOK 笑顔で毎日を過ごせる学校」を子どもたち、そして皆さんと共に創っていきます。年度末を迎え、子どもたちはそれぞれに一年間のまとめをしながら、次の学年への準備を始めています。一日一日を大切にしながら、最後まで充実した毎日を過ごせるよう、職員一同、心を込めて努めてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。